つみしの子

積志小学校
学校だより
令和７年２月10日

学校教育目標　～夢をもち 未来をつくる子～

立春とは名ばかりで寒い日が続いています。今年度も、残り１か月余りとなり、子供たちは１年のまとめをしながら、新年度への心構えを作っています。

恩送り

２月３日の朝会で以下のような「恩送り」の話をしました。

「つるの恩返し」という昔話を知っていますね。おじいさんが罠にはまった鶴を助けてあげたら、その鶴がおじいさんの家を訪ねてきて、機を織ってお礼をしたというお話です。「恩返し」というのは、恩を受けた人に行動でお礼をすることです。今日は、似たような言葉で「恩送り」という言葉を紹介します。恩返しは親切にしてもらった人が、親切にしてくれた人にお返しをすることですが、恩送りはその人にお返しをするのではなく、別の人に親切にしてあげることを言います。親切のバトンを渡していくということになります。恩送りは、英語にすると「ペイ　フォワード」と言います。２０年くらい前に「ペイフォワード～可能の王国」という洋画が話題になりました。お話のあらすじを紹介します。ある日の社会の授業で、先生が「世界を変えるためにできることを考え、やってみよう」という宿題を出しました。ほとんどの子供は、「そんなことできない。無理だよ。」と言いましたが、一人だけ「そうだ。こうしてみよう！」とアイディアを出す子がいました。まず、自分が３人に親切にします。そして、その３人にそれぞれ３人を助けたり、親切にしたりするよう伝えます。さらに助けられたり親切にされたりした９人がそれぞれ３人に恩を送ります。３人が９人、９人が２７人、２７人が８１人と、優しさの輪がどんどん広がっていきます。このように恩送りがつながっていけば、数えきれないほど多くの人が親切を受け、幸せな気持ちになり、世界が変わるのではないかと考えたのです。実際に、一人の少年の行動が見えないところで広まっていき、社会を変えたというお話です。

積志小でも、次のような話を聞きます。「入学したばかりの時、とても不安だったけど、登校班の人が親切にしてくれたから、自分も新しい１年生に親切にしたい。」とか、「転校した時、ドキドキしていたけど、クラスの人が声を掛けてくれて安心したので、転校生が来た時、声を掛けた。」という話です。友達からもらった「優しさ」を別の子に返して、広げていく恩送りが積志小でもたくさん行われていてうれしくなります。

２月や３月は、１年のまとめの時です。また、お世話になった人に感謝をするときです。大事なことは、しっかりお礼を伝えること、そして、自分がしてもらったことは感謝するだけでなく、誰かに送ってほしいと思います。誰かから優しさをもらったら、その優しさを周りの人に振りまいて心を温めてあげたいですね。そんなふうに人と人とがかかわり、つながっていけたらもっとすばらしい学校、すてきな社会になるでしょう。

＜校長　佐藤　匡子（さとう　まさこ）＞